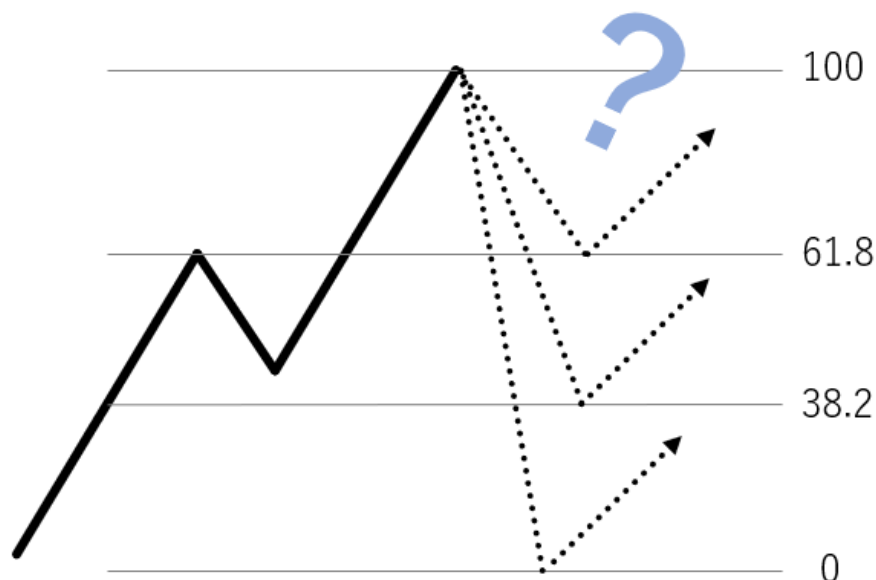


フィボナッチの活用方法

私がチャートを「見やすいように」レイアウトする方法は、水平線が 95%、斜めのラインはたまに雰囲気を使う程度で、**ほぼほぼ水平線のみ**でフィルターをかけています。

その水平線のうちの 1 つがフィボナッチ・リトレースメントで、フィボナッチと言えば、押しや戻しの深さを想定する活用法が最もメジャーですが、私は、ほぼこの使い方はしていません。

なぜなら、「61、半値、38」 ”のいずれか” まで戻す確率が高いですが、それらの内のどのラインまで戻すかは不確実で、波形スケールや他の指標に比べて特に優位であるとは思わないからです。



青牛式トレードマスター講座

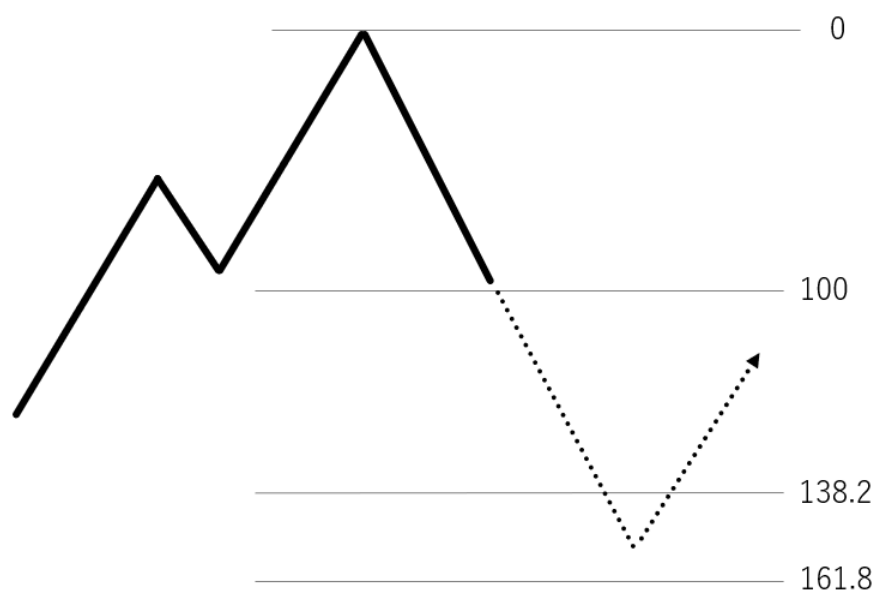
そして、私が主に指標としている値は、**138.2 と 161.8** です。

ジモンファミリーに参加している方であれば、この数値が意味することはよくよく理解しているでしょうから、それ以外の方に簡潔に説明すると、「**ストップが溜まっているゾーン**」を見極めるために使っています。

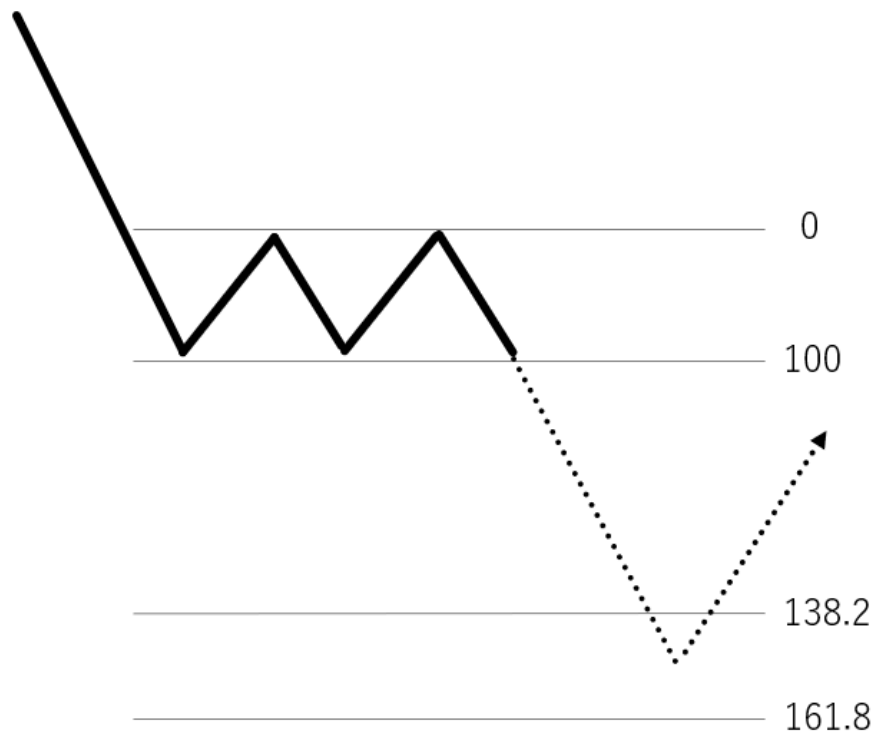
具体的に、どのような位置に設定しているのかということは、トレードジャーナルを見ていただければ分かりますので、ケースバイケースでどのように使っているのかという視点で見てみてください。

ただ、基本的な考え方としては至ってシンプルで、

〈一つの波形を形成した高値と安値を結ぶ〉



〈レンジの上限下限の先端に設定する〉



活用する上では、この2つを指針としているだけなので、理論的に捉えてあまり難しく考える必要はないと思います。

フィボナッチを敬遠する人の最も多いであろうその理由は、「どこに当てれば正確に効くのが一律ではなくてよく分からないから」だと思いますが、フィボナッチ数列＝黄金比という概念自体がそもそも機能する構造的な根拠というのは、あくまで確率的傾向の1つであって「無数のバイブレーションの相互

作用で構成される自然界の平均的な振動リズムが、相場でもやはり平常的に多
く起こりやすいから」程度に考えています。



そして、ここからが重要なのですが、だからこそ**フィボナッチは、そのレー
トでピッタリ相場が反転するというよりは、「その比率 "付近" の位置で折り
返しやすい」というエリア的な認識がより適切**だと考えています。

つまり、"確率分布が比較的密集している地帯" といったイメージです。

青牛式トレードマスター講座

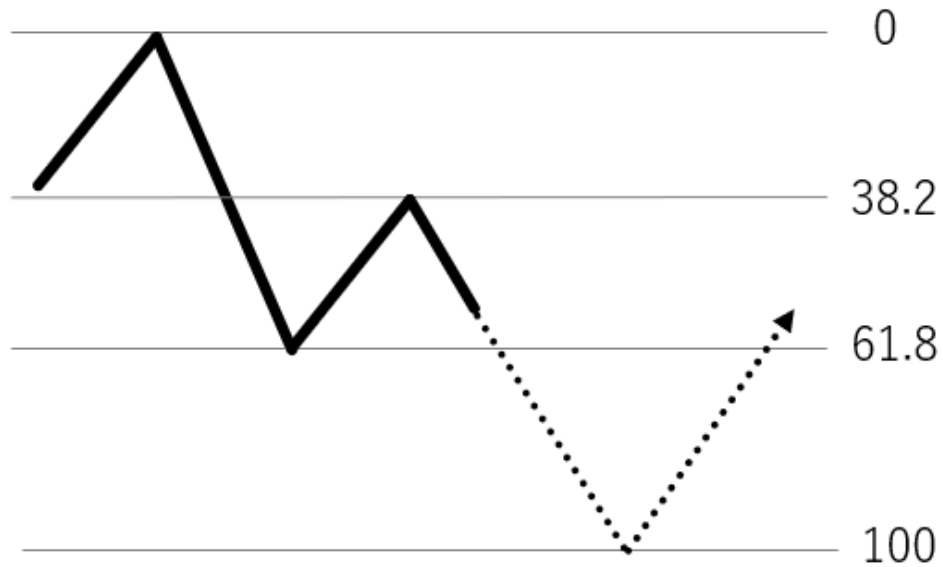
完璧な答えがあるのではなく、「どこに当てれば効きそうか」を日々、試行錯誤しながらアプローチするということに楽しみを感じる方であれば、取り入れてみることをオススメします。

使ってみればわかりますが、経験則としては、完全にピッタリではないにしてもかなり近い位置で一旦は反転することが多いと感じています。

フィボナッチのもう一つの使い方は、「先行指標として未来を予測する」ために引きます。

これについては、イラストを見てもらうと分かりやすいのですが、リアルタイムで形成されているこの波形は、一体どこで完成となるのか？の目測を立てるために当てるという方法です。

青牛式トレードマスター講座



ただ、この方法には注意が必要で、設定した想定波形を、自分の都合がいいように解釈し先入観を持ってしまう可能性がある点です。

この注意点を分かった上で使うのであれば、有効な先行指標となるでしょう。

いずれにしても、フィボナッチはチャート上に潜んでいる可能性を「感覚的に」把握するツールという考えが私としての最適解です。

青牛式トレードマスター講座

また、冒頭で「見やすいように」と表現しましたが、ここには注意しなければいけない概念があって、何かを見えやすくすることは、他の構成要素である何かを「見えにくくしている」ということ。

意図せずとも情報の陰影に手を加え、自分を取り出しやすい情報を抽出しやすいようにフィルターをかけることで、そこに潜在している他の何かを見えにくくしている可能性があるということは十分理解するようにしてください。

フィボナッチを楽しみながら使ってみましょう。

ありがとうございました。

あをうし